

ユリイカ 9月号特集*立花隆

『宇宙からの帰還』はどこから帰ってきたのか

井田 茂 (東京工業大学地球生命研究所)

----< 以下、抜粋 >----

...この本は、アポロ計画などの NASA の有人宇宙開発に携わった宇宙飛行士たちを取
材し、...地球というものに縛られてきた人間は、球体の地球の姿を生で見ることによっ
て自分がそこから離れていることを強く自覚する。「死」を連想させる漆黒の宇宙に浮
かぶ青い地球の姿は、そこだけが「生」のオアシスとして強烈な存在感を示す。この脱
地球の感覚は、「意識構造に深い内的衝撃」を与え、その人の人生観、宗教観、世界観
などをしばしば大きく変えてしまう。...NASA の宇宙飛行士たちの多くはそこで「神」
を感じ、伝道師になったものもいるし、精神に異常をきたしたものもいる。...

...21 世紀に入って、天文学者や惑星科学者たちは、宇宙に行って地球を見るという
強烈な実体験をしたわけではないが、驚愕の発見の連続による集団的な体験を通して、
この「地球」への呪縛から解放されていった。...最大の要因が...1995 年に始まった太
陽系外の惑星 (系外惑星) の発見である。そして、2005 年の太陽系内の土星の小衛星
であるエンケラドスからの噴水の発見が追い討ちをかけた。『宇宙からの帰還』が今ま
さに読まれるべき本だと思ふ理由のひとつが、これらの発見とそれによる天文学者や惑
星科学者の急激な意識変革である。...地球は「奇跡の惑星」ではなく、宇宙には生命が
充満しているかもしれないのだ。...大きな問題は、そういう想像不可能な地球外「生
命」を、人類が持つ限定された知識のもとに探ることができるのかということである。...
一方で、...観測...探査データは、今後も息つく間もなく次々と提示されていくはずであ
る。悠長に「生命とは何か」と神学論争をしている時間の余裕はない。...

...もっと直接的に『宇宙からの帰還』に関わるのが、宇宙ビジネスの勃興である。...
宇宙観光が一般化していくのはあつという間かもしれない。そのとき、人類の意識構造
はどのように変革されるのだろうか。社会はどうなるのであろうか。『宇宙からの帰還』
を読み、立花隆が 40 年も前に切り開いた観点を展開して考えていくべき時代に、今こ
そ入ったと言えるであろう。